

〈図書紹介〉

地球の水が危ない

高橋裕著 岩波新書
2003年 216p. 700円(税別)

「駅やコンビニで買って飲むミネラル・ウォーターがおいしい季節になったなあ」などと考えながら、この本を読むと、頭をがつとやられる。

飲料水が、透明で、安全で、充分なものと思っている人間は多くないのである。一昨年ベストセラーになった『世界がもし100人の村だったら』(池田香代子再話・マガジンハウス)にも「17人は、きれいで安全な水を飲めません」と書いてあったが、この本によると、「水不足と水汚染が原因で」「約8秒に一人の割合で死者が出ている」状態という。

また、世界の人口の増加と途上国の経済発展が、水の需要を増やしていくため、21世紀は「水獲得問題が原因となって戦争が発生する可能性が高い」のだそうだ。日本には、ナイル川のような国際河川は存在せず、ヨルダン川のように複数国で共有している河川もないため、河川をめぐる紛争に無関心だが、今後はそうもいかない。40%という低い食糧自給率を補うため輸入している農産物や畜産物、それ

子どもが主役になる

“歴史の討論授業”の進め方
歴史教育者協議会編 国土社
2002年 237p. 2,200円(税別)

討論授業という、一つの仮説に対して生徒が活発に賛成や反対の意見を述べ、その仮説を吟味する授業場面を思い浮かべがちである。

しかし、この本では、歴史の討論授業をこうした授業場面だけに限定して、狭く捉えていない。歴史の討論学習を『「問と答の間を曲がりくねって考えぬいていく過程」を十分に保障しようとする、教育と学習の本質に根ざした授業方法である』と大きく捉えている。したがって、こうした観点から、①考えぬくための教材の選定・問題提起・仮説づくりの方法論や指導法、②討論を組織し考えぬく学習過程、③考えぬくことの歴史教育的意義を3章立てて具体的に述べている。

第1章 「歴史の討論授業—その手立てと工夫—」

第2章 「討論授業の実践」

第3章 「討論授業と問題解決学習」

この本の中心は、第2章の「討論授業の実践」で、

に木材を生産するのに輸入先の国でどれだけ水を使っているか。この「間接水」のことを視野に入れ、水問題解決にむけた責任を果たしていくべきである。著者は、国際河川や国際湖についての紛争を分かりやすく説明するとともに、「間接水」の輸入量を試算している。

また、地球環境問題というと、温暖化対策が最も注目されているが、本当に大変なのは水の確保ではないか。本書はそういう危機感を読者に与える。「人間集団の節度を欠いた活動」が、地表でも地下でも水の絶対量の不足と汚染をもたらしている。それゆえ、WWC(世界水会議)によって「アジア水年」と宣言された今年、モンスーン・アジアに位置する日本に住む私たち一人一人が、水にもっと関心を持たねばならない。本書の後半部分は、アジアの水問題に多くの紙面を割いている。この中で、途上国では女性が水を家に運ぶという過酷な労働を強いられていることにふれ、「水とジェンダー」というテーマも扱っている。

最後まで問題提起に終わっているため、読後も考察を余儀なくされる、拡がりのある本といえよう。

都立戸山高校 高橋朝子

原始から近代まで時代順に13本の討論授業の実態が報告されている。内訳は時代別でみると原始2、古代2、中世2、近世3、近代4で、校種別にみると小学校2、中学校5、高校6である。

13人の報告者は、全国各地で小・中・高と勤務する校種は違っても、精力的にいわれる討論授業を実践している教師たちである。それだけに問題提起→仮説の形成→討論の組織などという学習過程は共通するものの問題提起の仕方一つとっても個性的でおもしろい。「朝鮮通信使と雨森芳洲の授業」は小学校6年の実践だが、何日も前から江戸図屏風の写真を教室に掲示して、資料に親しみを持たせている。「朝鮮人来聘記 付図 朝鮮人来朝行列図」(京都大学文学部附属図書館蔵)を準備し、床に置いて、自由に眺めさせている。子どもたちも多くの疑問を持ち、疑問を考え話し合っている。私には思いもよらなかった発想である。その他の実践からも学ぶべき点は多い。この本の最大の魅力はこうした問題提起・仮説の形成・討論の組織など工夫された個性的な討論授業に出会える点であると思う。

千葉県立木更津東高等学校 河名勉

ダマされるな!

目からウロコの政治経済学

金子勝・丸川珠代著 ダイアモンド社

2003年 194p. 1,400円(税別)

大学の経済学の授業で、「人間は経済的に合理的に行動する」という前提に違和感をおぼえ、学説の理解を拒否してしまった。そのせいだろうか、巷の経済本を読んで、心から納得したためしがない。マコトシヤカナ断定に出会うと、「だまされてるみたい」と思ってしまう—これって私だけかな?

気鋭の論客カネコマサル(珠代サンはこう書く)氏に、ばりばりスルドイ質問を發するテレビ朝日女子アナ珠代サンは、大学の経済学で私とほとんど同じ第一印象をもってた! そのことをこの本の159ページに發見して、「この本はそこらの本とちがう」という読後感は確信に変わった。

小泉改革の未来は、貧富の差の拡大、将来不安の増大、犯罪の多発ではないか。有事法制の成立で、有事の際には、銀座数寄屋橋のメゾン・エルメスの前を戦車の列が信号無視して走りぬけるのではないか。私たちは銀行や企業を助けるために、延々と不

景気につき合わされてきたってことにならないか……珠代サンの質問は、ふだん私たち庶民がボーンと感じている不安やいらだちを、みごとに言葉に変えてくれている。

それに対する金子氏の答えが、また、いい。160ページ弱(あとがきを除く)に14テーマだから、深い理論展開は別の本にゆずるとして(彼はちゃんと書いています)、小泉改革のおおもとから一刀両断。「アー、金子さん、怒ってる!」義憤が行間からにじみ出る。そして、単なる思いつきの批判ではない。ちゃんと対案が記されてる誠実さ(これを、きたる選挙の公約にしたら、民主党でも社民党でも共産党でも、勝っちゃうんじゃない?)。

しかも、そこに輝くウイットとユーモア。珠代サンが金子氏に興味を抱いたきっかけが、ご自分が担当した『朝まで生テレビ!』で「徹夜の討論にも衰えぬテンションの高さと、経済学者にはありえないラテンなノリに、『何やら変わった経済学者の先生もいるモンだ!』」と思ったことだったというのは頷ける。事象をことわざや格言に結びつけ、日常感覚を貫いたミヨーな経済本を、とくにご賞味あれ。

都立松が谷高校 小泉秀人(首相とは無関係)



定評ある実教の

新課程用資料集

新刊 新政治・経済資料 B5版352p. 予価950円

日常の学習のほか、受験対策にも役立つ充実の資料集

2004 資料現代社会 AB判240p. 定価930円

生徒の?! にこたえる、新しい大判の資料集

2004 新現代社会資料 B5判256p. 定価930円

現代の動きをとらえる充実の資料集

